

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800431		
法人名	医療法人 日新会		
事業所名	至福の郷グループホーム東町 1ユニット		
所在地	福島県喜多方市石田4041-1		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いある生活をしましょう。(笑いは副作用のない良薬です)を目標に掲げ、利用者様、職員が気が気持ち良く生活出来る様努めている、また、介護予防の為の太極拳を健康維持のため、無理なく毎日楽しく行っている。散歩途中地域の方と会話をしたり、花、野菜等頂き食材として使わせて頂いており、近くにお稲荷様がありお参りする事で心の安定を図っている。ご家族、親戚の方、友人の方とも良い関係を築いていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域の住民として生活できるよう地域との関わりを大切にし、地域との交流を積極的に深めながら相互交流を推進している。
2. 管理者と職員は、利用者に寄り添い意向を汲み取りながら支援に努めており、利用者も落ち着いた表情が伺える。
3. 事業所内の生活環境に工夫が見られ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々とふれあう時間を大切にしながら豊かに生活出来る様に理念を作りそれに基づいたサービスを実践出来る様努めている。また、月の介護目標を立て意識を持って取り組んでいる。	介護理念、介護目標を作成し会議やミーティング等で確認しながら、全職員で月間目標を立てケアに取り組んでいるが、地域密着型の理念となっていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念となるよう、全職員で理念を再検討して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年2回ふるさと通信の新聞を区長様を通し配布し生活の様子を理解して頂き地域の夏祭り、芋煮会に参加し交流に努めている。苑の避難訓練にも協力を頂いている。地域の中学生の体験学習を受け入れ介護について学んで頂いている。	地域の自治会に加入し、事業所広報の配布や地域行事に参加したり、区長に避難訓練に参加を頂くなどの交流に努め、各種ボランティアや職場体験学習で中学生を積極的に受け入れ交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の対する講座はまだ開催しては無いが地域の方に苑の行事に参加して頂いたり、また地域の行事に参加させて頂いたり今後少しでも多く交流出来、理解して頂ける様努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し 市、包括センター、区長、家族の方に出席頂き各々の立場より意見を頂き参考にし職員全員で改善に努めている。	運営推進会議は定期的開催されている。運営推進会議委員の方には避難訓練や救急救命講習に参加を頂く等活動も活発である。また、会議で委員の方から頂いた意見は、全職員で検討しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会、グループホーム連絡協議会や市で委託している介護相談委員を通し報告相談しながら関係を築く様になっている。	定例報告や各種会議の中で、事業所の現状や利用者の生活状況等について情報提供を行い、情報を共有しながら連携を深め、市の担当者の理解と協力が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について資料を読み合わせをし、日々の生活に生かしている。玄関にセンサーを設置し職員が出入りに気付く様にし、日中は鍵をかけない様心がけている。	会議の中で「身体拘束をしない11ヶ条」の基本マニュアル等を基に勉強会を実施し、ミーティングで再確認しながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。夜間を除き玄関等の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について日頃より、職員が話し合い虐待防止関連法の読み合わせをし職員が意識を持ち生活に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者様がまだ居ない為支援は行っていないが、後見人制度の研修に参加し事務所に提示し理解する様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時に十分説明し理解した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回定期的に御家族にアンケート用紙を送り要望、意見等を気軽に聞く事の出来る体制を作り、来所時、話やすい雰囲気作りを努めている。利用者様の気持ちを引き出せる様日々の関わりに努めている。	日常生活の中で利用者の思いや意向の把握に努め、家族にはアンケート調査の実施と面会時に希望や意見を伺い、出された意見は職員で話し合い運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会で全員で話し合える機会を設けている。また、ミニ勉強会を行い意欲を高める様努めており、日々の申し送り時などでも職員の意見を聞き運営やケアサービスに反映出来る様努めている。	会議やミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、日常業務の中で職員の意向や声に耳を傾けながら、出された意見や提案を運営に活かしている。また、法人への意見具申の体制も整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、職員の評価を行い、向上心を意識させる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人の研修が充実なものになる様にしている。外部研修にも参加し、また、苑内独自の勉強会を通しケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人とのグループホームの管理者会議を毎月開催場所を変えながら管理者同士の情報交換をしている。2ヶ月に1回の院内研修の中で相互間の交流や情報交換できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様を見守りながら気付きが大切であり自尊心を傷つけずプライバシーを守り個々に合わせた対応に努める様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時情報交換をし不安を取り除く様安心して頂ける様に信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族様と本人様の話を聞き納得したサービスが出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において本人様が出来る事を行って頂き、職員と一者に昔を思い出しながらお互い協力し合える様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回利用者様の日常生活、身体面、その他の様子をお便りをして行事への参加や来苑時自室にてゆっくりして頂ける様配慮をし、職員と話合える雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室への送迎を行い御家族の協力を得ながら関係を続けている。来所持は自室にてゆっくりとお茶など飲みながら会話して頂き帰られる時には、また来苑して頂ける様声掛けに努めている。	行きつけの美容室への送迎支援を行ったり、友人、知人の訪問時はゆっくりくつろぎやすい雰囲気づくりに努め、馴染みの方との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の会話に職員が何気なく言葉の橋渡しをしながらお互いの関係を築く様に努め、また利用者様の部屋にて他の利用者様が楽しく会話している姿あり自由に過ごして頂く様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係を断ち切らない様、必要に応じ相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用様の思い、希望がみえる様会話を大事に努め気持ちを読み取る様、また職員の気づきを会議で話し合い意向に沿える様に努めている。	日常生活の中で利用者の意向や思いを汲み取り把握に努めている。また、意思疎通が難しい利用者には、日頃の言動や仕草、表情、行動等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方と本人様の話をよく聞き様子を見守る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様を見守り見極めが大事でありその方の生活リズムで過ごして頂ける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族、職員との思いを共有し、より良いケアが提供出来る様意見交換をし介護計画に活かせる様努めている。	担当制を導入しているが、全職員で意見交換を行い、利用者、家族の意向を反映した介護計画を作成している。また、利用者の状態変化が見られた時は、見直しと状態変化に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、チェック表、申し送りノート、入居後のご利用者様の様子表で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により受診が出来ない時職員が対応している。買い物、市内への散歩などその都度対応し、家族の協力により外出、外泊などで気分転換を図れる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、ボランティアの訪問、介護相談委員の方との交流を深め楽しく、生きがいのある生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族の方が安心出来る治療の継続を考え、意向を確認しながら希望の受診を支援している。変化のある時は家族の方に同行をお願いし現状を理解して頂く様努めている。	本人、家族の希望にそったかかりつけ医を受診しており、病状等必要に応じて家族も同行している。受診結果の情報も家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録、診療記録を通しその都度、報告相談している。月1回希望の診療の科の看護師に来て頂き、より深くみていただく様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を提供し伝達している。入院期間中看護師との連絡を密にし本人様の状態を確認し、情報交換や相談に努めている。御家族にも随時連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として対応出来る身体状態の変化を常にご家族と話し合いながら訪看師に報告、相談し協力機関と連携を図り職員全員が支援出来る様共有している。	入居時に重度化や終末期のあり方を家族に説明し理解を得ており、職員には支援のあり方を周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会の3時間講習、1時間講習を交互に受講している。職員全員が対応出来る様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の代表者の協力を頂き避難訓練を行っている。地区の代表者の方より同地区の方に連絡が行く様になっている。	火災訓練を2回実施している。夜間想定訓練、地域住民など(運営推進会議委員)の参加を頂き、消防署の指導を頂いた訓練も実施している。	火災や地震などいろんな災害における避難方法を利用者、職員が習熟できるよう訓練回数を多くするよう検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や個々の性格を把握し、行動や言葉、表情を見て気持ちに添う様、またその方に合った言葉掛けを心がけている。	居室への入室の時は利用者の了解を得て入室し、排泄支援時等は誇りや羞恥心に配慮した声かけやトイレ誘導を行うよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思を確認し要望に添う様支援している。また言葉以外にも注意して観察し、自己決定出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせる事を大事にし希望に添える様無理のない生活をして頂ける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪については、定期的に床屋さんに入って頂き本人様が髪の長さなど言われたりする。また行きつけの美容室を利用されている方は継続して頂いている。衣類など同じ服にならない様気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の食材を取り入れながら視覚、匂いなど感じ職員と共に盛り付け、配膳など行って頂き皆さんで食事の時間を楽しく過ごせる様に努めている。	食事の摂取量や日常の会話から利用者の好みを把握しメニューに取り入れている。また、盛りつけや配膳等を職員と一緒にを行い、食事を共に味わいながら食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量を表に記入している。食器の色を変え食べ物が見えやすい様にしている。体調に応じ食事の工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立されている利用者様は本人様に任せている。口腔ケアの重要性を職員が共有し食後の嗽の声掛け就寝前の歯磨き、義歯洗浄剤にて義歯の手入れをし清潔に保って頂く様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し利用者様のサインを見逃さず、さりげなく声掛けをトイレでの排泄の喜びを感じて頂ける様支援している。紙パンツより布パンツに変え自立を促した。	排泄チェック表や表情から排泄のタイミングを把握し、羞恥心に配慮した声かけとトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便パターンを把握し食物繊維の多い食材を取り入れ十分な水分、腸の動きを促す適度な運動、太極拳のゆっくりとした動きをする事で便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る体制であり、利用者様の身体に負担のかからない様、安全に事故がなく気持ち良く入浴して頂く事を考え支援している。	入浴回数は本人の希望に応じた入浴を実施している。また、入浴は利用者の状態やタイミングに配慮した入浴を行い、季節の菖蒲湯、ゆず湯等入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活リズム、体調を見ながらカーテンの使い方、照明、室温、音などに配慮している。換気扇のON、OFFにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、診療記録に記入し職員全員が把握出来る様にしている。服薬の変更時は特に身体の異変に注意する様努め医師へ報告し指示を仰いでいる。また相談出来る薬局があり相談、情報など頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の清掃、食事の盛り付け、茶碗拭き、洗濯物干し、畑仕事、お稲荷様お参り等で出来る事により満足感を持って頂き、また気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、お稲荷様のお参り、買い物など行っている。家族の方が自宅、馴染みの美容室、ドライブなどの外出をして頂いている。	近隣のお稲荷様への散歩、市内へのドライブ、買い物、職員や家族との外食や市内の名所地に出かけたり、家族と墓参りをするなど希望にそって出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で持っている方は御家族の方に所持金をお話し確認している。買い物については希望があれば一緒に同行し購入支援をしている。また、職員が希望の物を購入する支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、友人の方々よりのハガキ、手紙など本人様の了解のもと代読、代筆を行い、自分で書かれる方には一緒にポストに出しに行ったりしている。電話も自由に使って頂きプライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の行事を感じて頂ける空間作りをし清潔感を保つ様になっている。(草花、お雛様、クリスマスツリー、だんごさし等)障子戸の開閉で外の光調整をしている。	温度、湿度に配慮し、観葉植物、季節の共同作品、行事写真等を飾り、季節感を取り入れ居心地良く生活できるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアスペース、畳スペースを自由に利用して頂き椅子の配置や場所を考慮している。利用者様の部屋にくつろげる椅子を置き他利用者様がお話出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	個々の趣味や嗜好を活かして過ごして頂ける様な環境作りと写真、小物などを飾って頂き明るい空間を楽しめる様努めている。また、他の利用者様がいつでもお話出来る様椅子などを置きサロンの様な雰囲気を作っている。	本人、家族と話し合い、趣味の生け花、習字、絵画などの作品や家族写真、観葉植物など思い思いのもので居室を飾り居心地良く安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険に繋がる様な物はすぐ排除し、張り紙、目印などで混乱を防ぎ解りやすい様努めている。		